平成23年群馬中央野球部OB会

定時総会次第

1．開会の辞

2．会長挨拶　　竹西会長

3．来賓挨拶　　持田顧問

4．議事

①平成22年度事業報告・事業計画（案）

②平成23年度決算報告及び監査報告・予算（案）

5．閉会の辞

講演会次第

1．開会

2．講師紹介

3．講演会

テーマ『私の群馬の野球観』

講師　群馬ダイヤモンドペガサス監督

秦　真司　氏

4．謝辞　　長谷川副会長

5．閉会

新年会次第

1．来賓挨拶　市川同窓会長

2．乾杯　　高地相談役

3．懇談

4．校歌斉唱

5．〆　　田中相談役

司会

松

市川光則様
秦真司　様
竹　西　　薫
長谷川雄一
高　橋　幸　雄

持田章　様
高地康男
田中健治
桃　沢　　均

竹

大　沢　　博
反町正仁
荻野隆夫
武井憲一

飯　野　　悟
茂木千幹
田村考也
室橋秀人

梅

正村泰博
新井利治
岡本通弘
倉林保之

坂　爪　　隆
佐藤尚之
桜井博康
高柳和浩

宝

髙田浩一
岩　井　　潔
高　井　　豊
中島康夫

柴田敏夫
高瀬清美
関　沢　　淳
田村一紀

錦

田村克弘
福田真宜
本多信幸
山越雅美

荻原康成
吉川友人
藤井暢尚
横澤拓也
武　者　　篤

平成22年度OB会事業報告

年　月　日	活　　動
平成　22　1　16	新年会
22　3　6	臨時役員会
22　4　3	臨時役員会
22　4　17	定時総会
22　5　1	軟式野球部差し入れ
22　5　7	甲子園出場資金監査
22　5　15	定時役員会
22　7　4	硬式野球部差し入れ
22　8　22	軟式野球部保護者会総会出席
22　8　22	硬式野球部保護者会総会出席
22　8　30	歴代校長へ「熱球の軌跡」贈呈
22　9　4	臨時役員会
22　10　23	第2回OB会ゴルフコンペ開催
22　11　20	OB現役交流戦開催

平成23年度OB会事業計画（案）

年　月　日	活　　動
平成　23　2　12	定時総会
23　2　12	新年会
23　3　12	定時役員会
23　3　12	OB会・保護者会懇親会
23　10　16	第3回OB会ゴルフコンペ
23　11　12	OB現役交流戦

平成22年度決算報告書

（単位：円）

収入の部		支出の部	
繰越金	461,632	総会関連費	277,467
OB会費（3,000円×105名）	315,000	新年会関連費	172,211
新年会会費（5,000円×31名）	155,000	通信費 ・総会及び新年会等案内	145,520
総会懇親会会費（2,000円×47名）	94,000	印刷代 ・総会及び新年会等案内	18,770
その他（寸志等）	55,000	野球部支援費 ・差し入れ	9,950
受取利息	66	会議費 ・役員会	920
記念誌譲渡収入	2,600	OB親睦関連費 ・ゴルフコンペ支援費	27,000
		慶弔費 ・会員関連生花代等	63,425
		広告費 ・上毛新聞夏の大会応援広告	26,250
		事務用品費 ・印鑑	3,600
		雑費 ・役員退任記念品、振込手数料	18,800
		次期繰越金	319,385
	1,083,298		1,083,298

上記の通り収支決算をご報告いたします。

平成23年　2月　5日　　会　計　　柴 田 敏 夫 [redacted]

監査の結果、収支決算が相違ないことを承認いたします。

平成23年　2月 5日　　会計監査　　正 村 泰 博 [redacted]

平成23年度予算（案）

（単位：円）

収入の部		支出の部	
繰越金	319,385	総会・新年会関連費 ・総会・新年会懇親会関連費	300,000
OB会費（3,000円×120名）	360,000	通信費 ・行事案内文送料等	150,000
総会・新年会会費（5,000円×40名）	200,000	印刷代 ・行事案内文、往復はがき等	30,000
		野球部支援費 ・激励会等寸志 ・差し入れ	50,000
		会議費	10,000
		OB親睦関連費 ・ゴルフコンペ支援金 ・OB戦弁当等	90,000
		保護者会親睦関連費	50,000
		慶弔費	80,000
		広告費 ・上毛新聞大会応援広告	30,000
		雑費	10,000
		予備費	79,385
	879,385		879,385

秦　真司監督　プロフィール

名　　前　　秦　真司（はた　しんじ）

出身地　　徳島県鳴門市

生年月日　　1962 年 7 月 29 日（48 才）

経　　歴　　鳴門高校―法政大学―ヤクルトスワローズ－日本ハムファイターズ－千葉ロッテマリーンズ

- 鳴門高校 3 年時に春夏、捕手として甲子園に出場。
- 大学 4 年の 1984 年、ロサンゼルスオリンピック野球の日本代表として出場し、金メダルを獲得。
- 翌年 1985 年のドラフトでヤクルトスワローズに 2 位指名されて入団。1987 年からは正捕手として活躍し、1990 年には打力と俊足を生かして外野手に転向。90 年代のヤクルト黄金時代を主力選手として支えた。
- 1999 年、日本ハムファイターズに移籍。その後 2000 年に千葉ロッテマリーンズへ移籍。現役引退後は千葉ロッテマリーンズで打撃コーチに就任後、解説者を経て 2005 年中日ドラゴンズの捕手コーチに就任（2006 年まで）。
- その後解説者と並行して筑波大学大学院で「スポーツコーチング学」を履修。
- 2008 年より群馬ダイヤモンドペガサスの監督を務め、新規参入ながら上信越地区後期優勝を果たし、その勢いで上信越地区総合優勝。
- 2009 年、上信越地区総合優勝。北越地区優勝の石川ミリオンスターズとのリーグチャンピオンシップに勝利し、初のリーグ総合優勝。
- 2010 年、上信越地区総合優勝。現在に至る。

エピソード　流れるような美しいスイングが印象的で、野村克也監督を「左打者のスイングのお手本」「秦のバッティングは少年野球のお手本」と言わしめた。

プロ野球エピソード　1992 年主力選手として出場した西武との日本シリーズ。1 勝 3 敗で迎えた第 5 戦、延長 10 回裏。守護神の潮崎からサヨナラホームランを放った。